2023年度フランス短期海外研修報告

的場　寿光

2024年3月8日から3月25日かけてオルレアン大学附属フランス語学校Institut de français（以下、IDF）にて短期海外研修を実施した。2019年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により中止を余儀なくされてきたが、実に4年ぶりに実施することができた。その間、オルレアン大学の教員によるオンラインでの海外研修を行ったことはあったが、やはり異なる社会、異なる生活スタイルのなかに身を置き、常にフランス語に触れられる現地での海外研修に代えられるものはないと考えさせられた。現地での生活を通して、学生たちは日常生活を送る上で必要な語学力にとどまらず、自分の考えや主張を伝え、言葉によるコミュニケーションによって自分を取り巻く状況に対して主体的に行動し変えていくという、広義でのコミュニケーション能力を身に着けることができたと思われる。

こうした有意義な海外研修を今後も継続して実施することが期待されるが、より一層充実した研修にするために今回の研修内容、研修に至る過程について十分に精査した上で、今後の研修計画に反映させなければならない。研修後、学生たちと研修について振り返りの場を設け、改善すべき点についての指摘や提案をしてもらった。以下は、学生たちへの聴き取り調査をもとに作成した研修報告である。

1. フランス短期海外研修概要

2023年度フランス短期海外研修は2024年3月8日（金）から3月25日（月）まで18日間にわたって実施された（日本到着は3月26日）。参加人数は11名（4年生2名、3年生4名、2年生4名、1年生1名）、それぞれの所属学部は法文学部（4名）、総合理工学部（3名）、人間学部（2名）、生物資源学部（1名）、教育学部（1名）と医学部を除くすべての学部から参加者が集まった。事前研修としては2月初めに2時間程度、研修日程、研修内容と滞在中や渡航準備に関する注意点に関する説明会を行った。参加者の都合で、2回に分けて実施せざるをえなかった。

3月8日12時25分発の飛行機で大阪関西国際空港を出発、多少の遅れがあったものの同日20時ごろパリ・シャルル・ド・ゴール空港に到着した。その後オルレアン大学が手配したシャトルバスに乗り込みオルレアン大学へと向かう。シャルル・ド・ゴール空港からオルレアン大学までは車で2時間程度だが、フランスに足を踏み入れた感動よりも飛行機と合わせて20時間近い移動時間に疲労困憊という状態であった。大学に到着したのは現地時間で23時頃、ホストファミリーとの顔合わせをし、各々の滞在する家へと向かった。最初の週末はホストファミリーと過ごし、オルレアンの街を散策したり、大学までの通学路を確認したり、また近郊のシャンボール城などを観光したりしたようである。語学研修初日の3月11日（月）は午前に今後のスケジュールの確認、大学の案内等があり、学食で昼食をとった後、午後はオルレアンの街の中心部にあるサント・クロワ大聖堂等のガイド

ツアーに参加し、オルレアンの歴史について紹介していただいた。3 月 14 日（木）までは IDF で授業があり、3 月 15 日（金）、16 日 (土) の二日間はモン・サン＝ミシェル、サン＝マロへの小旅行を実施した。翌週は 3 月 18 日（月）から 3 月 22 日（金）までで授業と最終テストを行なって語学研修を終えた。その後旧市庁舎でのレセプション・パーティーがあり、オルレアン大学の先生方、お世話になった事務の方との別れを惜しんだ。3 月 23 日（土）、24 日（日）はホストファミリーと過ごしたり、パリなどを観光したり、思い思いの最後の週末を過ごした。筆者は 3 月 15 日（木）まで引率を行い、一足先に帰国したため、3 月 25 日（月）は学生たちだけでフランスを出国した。初めての空港での出国手続きに戸惑ったり、荷物の重量超過で詰め直しを余儀なくされたりというトラブルもあったようだが、2 週間にわたる海外研修を共に乗り切ったチームワークで無事に帰国できた。

2. IDF での語学研修

パリから約 130 km ほど南西に位置するオルレアンの中心部からオルレアン大学まではトラムで 20 分ほどの距離である。ヨーロッパでの有数の広大なキャンパスを持ち、ときにはリスなどの野生動物が走り回る自然溢れる環境で 2 週間、語学研修が行われた。朝は乗客も多くかなり混雑していて乗り損ねることもあり、またトラムの本数もそれほど多くないため、当初は慣れない電車通学に戸惑う学生もいた。実際の授業の時間割は以下の通りである。

第 1 週

<table>
<tr><th></th><th>3 月 11 日</th><th>3 月 12 日</th><th>3 月 13 日</th><th>3 月 14 日</th><th>3 月 15, 16 日</th></tr>
<tr><td>9h00-10h30</td><td rowspan="3">オリエンテーション</td><td>会話</td><td>会話</td><td>会話</td><td rowspan="6">モン・サン＝ミシェル、サン＝マロ見学</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">休憩</td></tr>
<tr><td>11h00-12h30</td><td>文化講座</td><td>会話強化</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">昼食休憩</td></tr>
<tr><td>13h30-15h00</td><td rowspan="2">オルレアン市街見学</td><td></td><td>文化講座</td><td></td></tr>
<tr><td>15h15-16h45</td><td>発音</td><td>発音</td><td></td></tr>
</table>

第 2 週

<table>
<tr><th></th><th>3 月 18 日</th><th>3 月 19 日</th><th>3 月 20 日</th><th>3 月 21 日</th><th>3 月 22 日</th></tr>
<tr><td>9h00-10h30</td><td>会話</td><td>会話</td><td>会話</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">休憩</td></tr>
<tr><td>11h00-12h30</td><td>会話強化</td><td>文化講座</td><td>会話強化</td><td>会話</td><td>会話</td></tr>
<tr><td colspan="6">昼食休憩</td></tr>
<tr><td>13h30-15h00</td><td></td><td>会話強化</td><td>文化講座</td><td>会話強化</td><td>テスト</td></tr>
<tr><td>15h15-16h45</td><td></td><td>発音</td><td>発音</td><td></td><td></td></tr>
</table>

筆者がオルレアンに滞在した3月14日までの授業は可能な限り見学させていただいた。オルレアン大学の先生方は突然のお願いにも関わらず、快く受け入れてくださった。授業の難易度自体はそれほど高くはないものの、学生たちが受け身にならないよう実践的なアクティビティを多く取り入れ、言葉を発しやすい雰囲気づくりに配慮されていることが感じられた。研修序盤は、日毎に先生が変わるため、授業中にどのように振る舞えばいいのか探り探りの状態であったが、慣れてくるにつれて、聞き取れなかったところや理解できないところを自分から質問して、ひとつひとつ理解を確認しながら身につけようという姿勢が見られるようになった。また筆者にとっても授業内容はもちろん授業内のアクティビティや雰囲気作りなど教授法について数多くの示唆を得ることができた。

とりわけ発音の授業で、日本人にとって難しい母音の発音の区別（[u] と [ø] など）や子音の発音（[r] など）を集中的にじっくりと時間をかけて繰り返し練習していたのが印象的であった。微妙な発音の違いを聞き取ったり、実際に区別しながら発音したりできずに、学生たちは歯痒さを感じたようだったが、先生方は根気強くできるまでじっくりと練習に付き合っておられた。学生にとっては大変有益な時間だったように思える。

3. 語学研修以外の活動

今回の研修では当初予定していたプログラム以外にも現地の学生との交流などのいくつかのイベントを開催することができた。急な提案にもかかわらず快く受け入れていただいたIDFの先生方の協力によるところが大きいが、何よりも学生たちが自主的にIDFの先生方に、現地の学生と交流したいということをフランス語で交渉したからこそ実現したものである。ただ決められたプログラム通りに研修を終えるのではなく、限られた留学生活を無駄にすることなくより充実させようと、学生たちが自発的に行動できるようになったことは、今回の海外短期研修の成果のひとつであると思われる。

フランス人学生との交流の機会として、オルレアン大学で日本語を学ぶ学生たちとの交流会をセッティングしていただき、ゲームなどを通してお互いの文化や学生生活、フランスと日本では異なるとはいえ同年代で共感しうる日々の悩み等について話すことでより親密な交流を行うことができた。また学生たちの授業を担当していた教員が勤務するオルレアン市内の高校を訪問させていただいた。日本語を学ぶ高校生たちに対して日本語や日本の社会・文化について紹介するなどして国際交流に貢献したとのことである。こうした取り組みは学生たちがフランスの社会・文化について知るだけでなく、フランスの学生たちにも日本文化や島根について興味を持ってもらうために有益であり、今後も可能な限り継続していくことが期待される。

4. 今後の短期研修のために

帰国後、学生とともに研修に至るまでの過程や研修内容について振り返りを行った。学生からは改善すべき問題点の指摘や今後の研修のための提案が多くなされた。それぞれの学生は研修の意義を認め、より多くの学生に参加してもらいたいという気持ちから振り返

りに協力してくれことは感謝に堪えない。こうした自分の意見を率直に述べ、主体的に取り組もうという姿勢もまた今回の研修のひとつの成果であると言えよう。以下、学生からの指摘で多かった改善点を挙げておく。

1) 事前研修について

研修に至るまで9月のオンラインでの説明会、2月に事前研修（二時間程度）しか研修についての情報を得る機会がなかった。学生からの指摘で多かったのが、事前研修をもっと充実させるべきであるという意見であった。特に1年次にフランス語の授業を履修して以来、フランス語から遠ざかっていた学生も多く、渡航前にホームステイや授業でのフランス語に不安を抱いていたようであった。フランス語の学習に関しては学生の自主性に委ねられていたが、研修までに数回でも実践的なフランス語会話の研修を実施してほしいとの意見が寄せられた。大学1年時に学習するフランス語と現地で必要なフランス語の語彙は必ずしも一致しておらず、また時代の変化により新しい語や表現が現れるため、実際に現在必要な語句を事前に確認しておくべきであった。研修に参加する学生同士が事前に顔を合わせ、情報交換する機会がなかった点に不安を感じていた学生も多かった。事前研修でお互いを知り、留学準備等で情報を共有する機会を設定すべきであった。渡航費、語学研修に必要な費用のほかに、ホームステイ代、オルレアン大学での昼食代（学食）、空港とオルレアンのシャトルバス、オルレアン市内の交通費等、出発直前になって明確になった費用もあり、また現金で小銭も含めて支払うのは難しいところもあった。昨今の物価の高騰により渡航研修費だけでも高額であるのは致し方ないが、必要な金額は分かる範囲で事前に知らせてほしいという意見があった。

また短期研修についての事前の情報提供も不十分だと感じている学生が多かった。参加した多くの学生にとって決め手となったのは実際に短期研修に参加した学生の体験談であり、授業内や外国語教育センターの各種イベントであったという意見が多かった。こうしたリアルな体験談を聞く機会をさらに増やし、ホームページなどで情報公開をしていきたいと思う。

3) 語学研修に関して

IDFにおける授業は学生にとって大変刺激的で有意義であったと思われる。内容的にはそれほど高度なものではなかったが、受講生のレベルの違いにも十分な配慮がなされていた。また発音に特化した授業など本学の授業では重点的に扱いっていないテーマは学生たちには新鮮であったようだ。授業に関しては満足いくものであり、また2週間という限られた時間の中でのカリキュラムであるので致し方無いとは思うが、学生からはオルレアン大学で日本語や日本文化を学ぶ授業がどのように行われていのか関心を抱いたり、自分の専門に関する授業に参加したりしてみたいという要望が挙げられた。フランスでの生活に慣れてくるにつれ、学生たちも限られた滞在期間でできる限りの経験をしたいという気持ちが芽生え、自分の意見や要望を表現する姿勢が見られたのは素晴らしい成果であった。

実際に日本語を学ぶ現地学生との交流をオルレアン大学の事務の方にセッティングしてもらったり、オルレアン市内の高校の日本語のクラスに参加したりという、当初の予定になかった体験を実現できたのも彼女たちが自らフランス語で交渉を行ったからであり、こうした実践的なコミュニケーション能力を身につけることができたのは思いがけない喜びであった。

また研修期間に関しては従来の 3 週間を希望する学生も多かった。モン・サン＝ミシェルへの小旅行に加えて、ロワール渓谷の古城巡りやオルレアン近郊の建築物、美術館への見学などのエクスカーションがあれば参加したかったとのことである。

3) ホームステイに関して

それぞれの学生のホームステイ先に関しては、日本人学生の対応に慣れており、不満な点は全く聞かれなかった。語学力向上のために常にフランス語で話しかけてくれたり、英語は極力使わずフランス語のみでコミュニケーションをとるよう心がけたりして、大学だけでなく家庭でもフランス語を勉強する環境を提供していただいた。強いてあげるとすれば、なかには大学から遠く離れていた家もあり、通学にかなりの時間を要したところもあったことであるが、それに関しても学生にとってはいい思い出だったようである。いくつかの意見としては事前のアンケート（タバコ不可、ペット不可など）が反映されていないところもあったようである。また持っていくべき荷物に関しては事前に伝えられていたものと実際に必要だと感じたものが違うこともあった。不要なもの、持っていくべきだったものなどを実際に参加した学生に聴き取り、来年度以降に向けて情報を更新していく必要があるだろう。

5. 最後に

留学前は現地の大学での授業やホストファミリーとの生活、慣れない外国での暮らしに多くの不安を抱え込んでいた学生たちも、実際に現地に行けば、少しずつフランスの生活に馴染んでいくことに充足感を覚え、それほど日々の生活に困難を感じることもなく滞在期間を終えることができたようである。帰国してみればちょっとした問題や失敗談もいい思い出として楽しそうに話す学生を見ていると充実した研修であったと実感することができた。学生たちにとっても短期研修は忘れ難い思い出だったらしく、島根大学の留学 week でのイベントで短期研修について進んで下級生に話してくれたり、今回の振り返りにも快く参加してくれたりした。またこうした充実した研修を実施することができたのはオルレアン大学の方々がホームステイ先から大学生活まであらゆる面で配慮していただいたおかげであり、改めてこの場を借りて謝意を述べるとともに、短期海外研修の報告としたい。